

具体項目	未来を拓く学力	担当				
重点目標	○対話を通して学び合う力 ○ICTを活用して、学びを広め、深める力 ○一人ひとりに合った確かな学力	総合評価	A			
指 標	数 値 目 標	達成状況				評価
	「授業に主体的に参加している（意識調査ウ）」と答える児童が90%以上	A	B	C	D	A
		75%	23%	2%	0%	
		肯定的回答率 98%				
	「楽しみながらタブレットを活用し、調べたり発表したりできた」と答える児童が90%以上	A	B	C	D	A
		75%	23%	0%	2%	
		肯定的回答率 98%				
	「授業がよくわかる（意識調査エ）」と答える児童が90%以上	A	B	C	D	A
		60%	32%	6%	2%	
		肯定的回答率 92%				
具 体 的 な 取 組 【教職員】		達成状況				評価
①自己の考えを広げ深めるために、主体的な対話の場を設ける。		A	B	C	D	A
		43%	57%	0%	0%	
		肯定的回答率 100%				
②学習課題を意識して、児童の発言をもとに、授業をコーディネートする。		A	B	C	D	A
		29%	71%	0%	0%	
		肯定的回答率 100%				
③基礎基本の学力の定着や個別最適な学びの充実のために、ドリル(デジタルも含む)学習や自主学習ノートを積極的に活用する。		A	B	C	D	B
		57%	29%	14%	0%	
		肯定的回答率 86%				
④ICTを活用した授業実践を共有し合い、効果的に授業に用いる。		A	B	C	D	A
		29%	71%	0%	0%	
		肯定的回答率 100%				
総 括 と 改 善 策						
<成果> - 児童にとって身近で対話したくなるような課題設定を心掛け、児童の発言をもとにした授業のコーディネートを意識できた。 - タブレットを活用した授業実践についての情報交流を行い、ICTの効果的な活用に繋がった。 <課題> - 自主学習ノートへの取組について、意欲や内容に個人差がある。興味関心に応じた探求学習や補充学習などの有効な活用の仕方に課題がある。 - デジタルドリル活用の個人差が大きい。 <次年度に向けた改善策> - 自主学習ノートの取組について、話し合い集会を開いて縦割り班でアドバイスしあったり、委員会を活用し効果的な方策を練ったりする。また、教員同士でも、効果的な取組について話し合う。 - デジタルドリルの活用について、単元末にクラス全体で取り組む時間を設定し、活用に慣れるようにすることで、児童の自主性に繋げる。						